

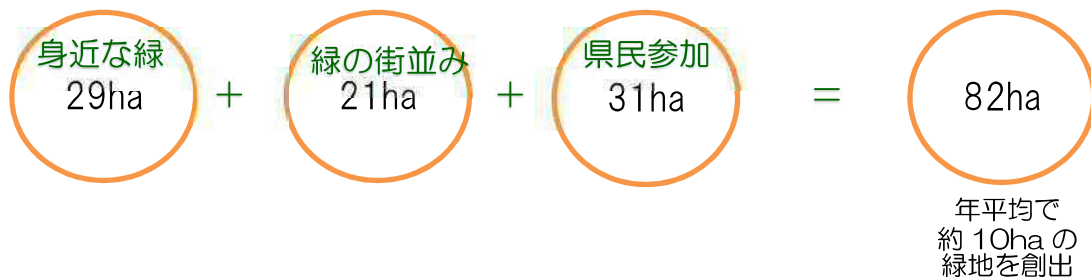
## 4 都市緑化推進事業

- 都市の環境改善や防災など様々な機能を発揮する都市の緑は減少傾向にある中で、本事業により、8年間で約82haの都市の緑を保全・創出
- 県民参加緑づくり事業では、8年間で約16万人の県民が植樹体験や樹木講座など、緑に親しむ活動に参加し、緑化への意識向上を図る

### ■緑地の保全・創出

- 平成21年度から28年度の8年間で1,754件の事業に助成を行い、その成果として約82haの都市の緑を保全・創出しました。

<H21~28年度の実績>



身近な緑づくり事業による  
樹林地保全（扶桑町）



緑の街並み推進事業による  
民有地緑化（名古屋市）



県民参加緑づくり事業  
（大府市）

- 美しい並木道再生については、8年間で67kmの区間で、街の顔となる道路の街路樹等を再生しました。

並木道再生  
67km



美しい並木道の再生  
（知多市）

(身近な緑づくり事業により創出した緑)



緑地の創出 (半田市)



軌道緑化 (豊橋市)



緑地の創出 (幸田町)



公共施設の屋上緑化 (愛西市)

(緑の街並み推進事業により助成した民有地の緑)



空地緑化 (名古屋市)



屋上緑化 (北名古屋市)



駐車場緑化 (豊田市)



壁面緑化 (長久手市)

(美しい並木道再生事業)



並木道再生 (一宮市)



並木道再生 (知立市)

(県民参加緑づくり事業)



NPOによる森づくり  
(モリコロパーク)

○ 愛知県では、平成4年から16年までの12年間において、年平均で27.6ha<sup>※1</sup>の都市の緑が減少しました。

これに対して、平成21年度から実施した「森と緑づくり都市緑化推進事業」では、貴重な樹木の保全や民有地緑化の助成などにより、年平均で約10haの都市の緑を保全・創出しました。

都市緑化推進事業は市街化区域に限った事業ではないので単純に比較はできませんが、参考に比較すると、都市の緑の減少速度を約36%<sup>※2</sup>遅らせることができた計算となります。

(※今年度予定している緑被面積等の調査結果に基づき、記述は修正します)



※1 市街化区域内の緑被面積  $\Delta 331\text{ha} \div 12\text{年} = \Delta 27.6\text{ha}$

※2 市街化区域を対象とした場合  $10\text{ha} \div 27.6\text{ha} = 36\%$   
都市計画区域の場合は、同様に 1.3%

### 「緑被率」について

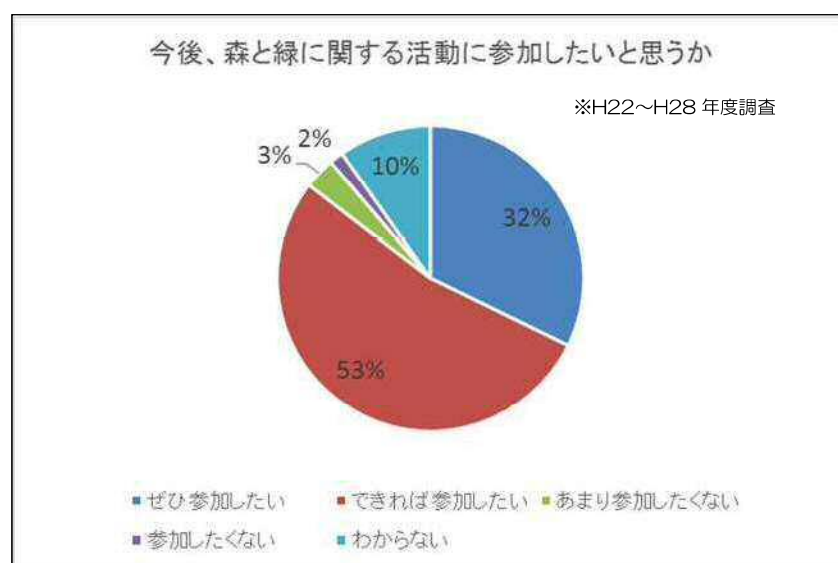
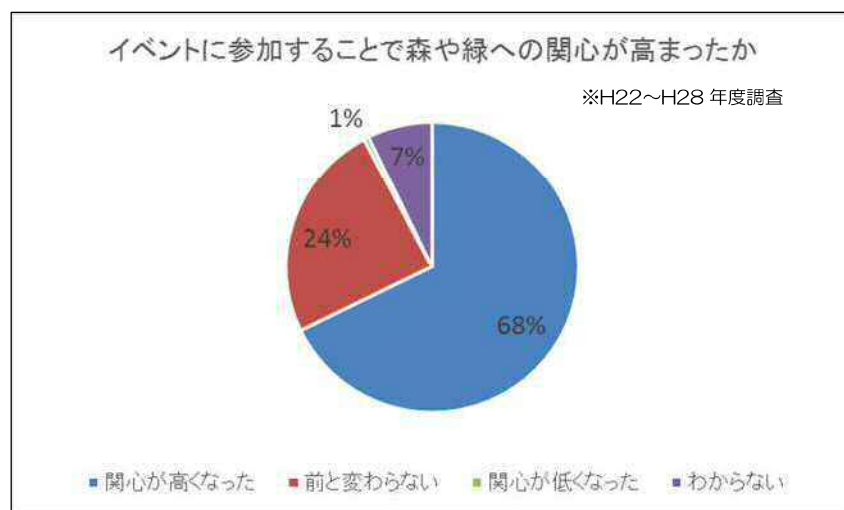
- 一定の広がり地域で、樹林・草地、農地、園地などの緑で覆われる土地の面積割合で自然度を表す指標の一つです。上空から地表面を見下ろしたとき、緑（植物など）に覆われている部分のことです。
- 愛知県では、愛知県全域における「緑の現状」を把握するため、ランドサットなどの衛星画像を分類・解析し、樹林地等、竹林、果樹園、草地等、水田、畑等、水面、裸地の8種類を調査しています。
- ゆとりと潤いある都市として望ましいとされる緑地の整備水準は、市街地の概ね30%以上とされています（「緑の政策大綱」平成6年）が、愛知県の現状は市街化区域の緑被率が20%程度に留まっています。

愛知県の緑被率の変遷 (%)

区域 \ 時点	平成4年	平成16年	平成28年
都市計画区域	58.1	55.3	調査中
市街化区域	20.8	20.1	調査中

## ■県民参加の緑づくり

- 県民参加緑づくり事業では、延べ 16 万 2 千人の県民が、植栽体験や樹木講座などの緑に親しむ活動に参加しました。
- 事業に参加した県民にアンケートを行った結果、68%の方が「森や緑の関心が高まった」と回答し、今後の活動参加についても 85%の方が「参加したい」と回答しており、普及啓発の効果がありました。



植樹祭（名古屋市）



県内産花卉を使用した  
市民による駅前花壇づくり  
（蒲郡市）



市民による校庭緑化  
（春日井市）

- 平成27年の第32回全国都市緑化あいちフェアでは、市町村のサテライト会場を含め300万人を超える方々にご来場いただきました。「森と緑づくり都市緑化推進事業」では、サテライト会場における県民参加事業に助成し、花と緑の普及啓発に取り組みました。

第32回 全国都市緑化あいちフェア



サテライト会場(犬山市)



サテライト会場(安城市)



サテライト会場(豊橋市)

- また、当フェアの意義や成果を継承するため、平成28年度からは、駅前など街の顔となるような箇所において県内産花きを活用した県民参加のモデル事業により、花と緑の普及啓発に取り組んでいるところです。



県内産花きを使用した駅前花壇(一宮市)



県内産花きを使用した駅前花壇(豊橋市)

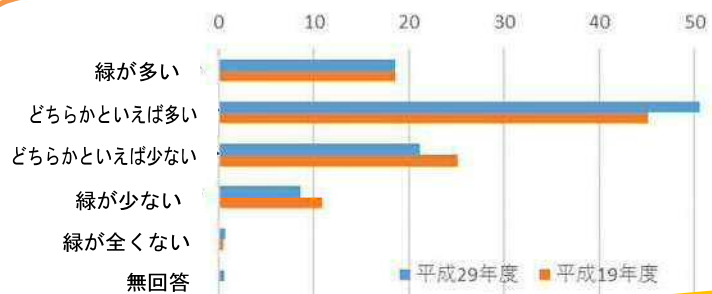
## コラム

### 都市緑化に関する県民の皆様へのアンケート結果 ～ 10年前と比較して ～

10年前と比べて、あなたのお住まいの周辺の緑は増えましたか、減りましたか。



お住まいの周辺の緑の状況について、どのように感じていますか。



お住まいの周辺でさらに緑を増やすとしたらどこが良いと思いますか

その場所は、  
H19 ①家の庭や生け垣 ②公園の緑 ③水田や畑  
H29 ①公園 ②家の庭や生け垣 ③街路樹など道路 という結果でした。

H19 ①街路樹など道路 ②公園 ③学校などの公共施設  
H29 ①公園 ②街路樹など道路 ③学校などの公共施設

現在残っている緑を守っていくために、愛知県にどのような取組を望みますか

平成29年と平成19年で、同じ順位  
①自然の緑を守るための環境教育を行う  
②法律や条令により開発を制限する

県民の皆さんが、今よりも緑に関わりを持つためには、愛知県として必要な取組は？

平成29年と平成19年で、同じ順位  
①都市緑化フェアや緑化講演会などのイベントの開催  
②県民への苗木の配布  
③ガーデニングなどの緑化相談や研修の充実

平成29年度第1回県政世論調査  
(調査期間：平成29年7月11日～平成29年7月30日まで)  
平成19年度第1回県政モニターアンケート  
(調査期間：平成19年5月31日～平成19年6月10日まで)

## 5 環境活動・学習推進事業

- 交付対象となった事業の活動等へ、延べ52万3千人が参加
- 参加者へのアンケート調査では、9割以上が森や緑の重要性に対する理解が「深まった」と回答
- 生態系ネットワーク形成の取組が、県内各地域で展開

### ■活動等への参加人数

- 平成21年度から8年間で、交付対象となった事業への参加人数は延べ52万3千人となっています。
- 平成23年度以降は毎年延べ6万人程度が参加しており、森と緑づくりにつながる環境活動・学習推進のための事業として期待されていることがうかがわれます。

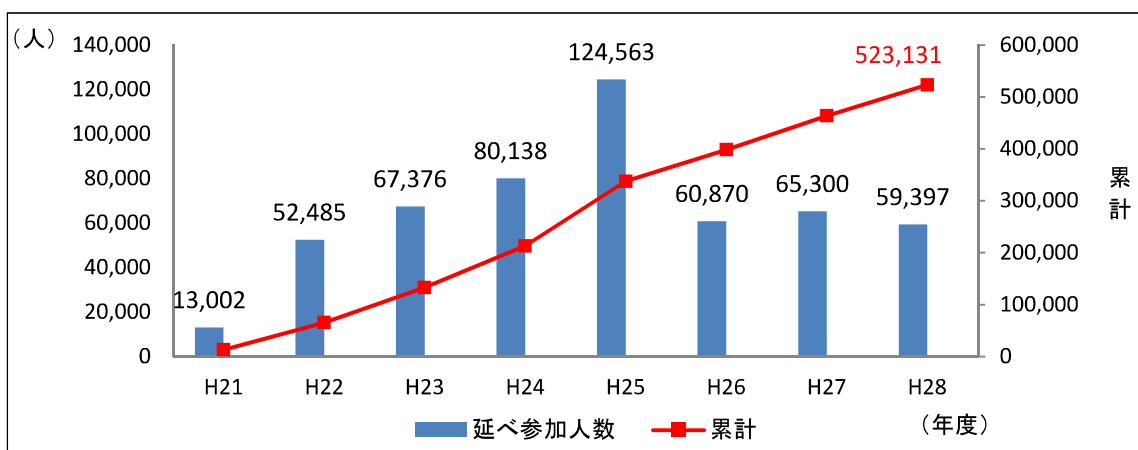


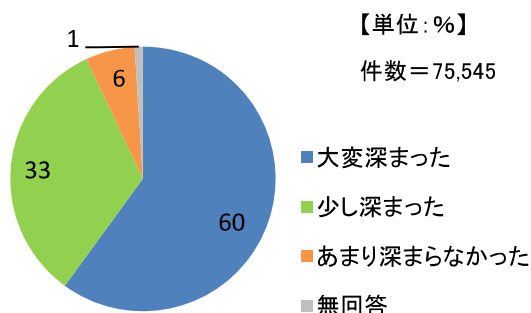
図 4-14 交付対象となった活動等への参加人数

注) 生態系ネットワーク形成事業は除く。

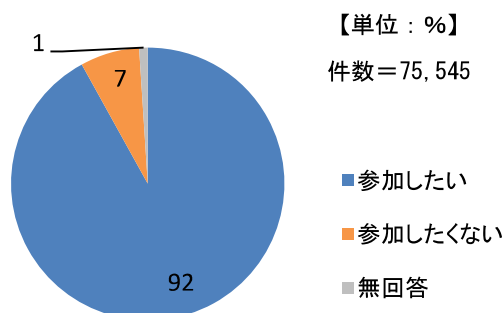
平成24年度は特定の1団体の参加人数が3万4千人を、25年度は2団体の参加人数が6万6千人を占める。

### ■参加者へのアンケート調査結果

- 参加者へのアンケート調査（平成21年度から28年度）では、9割以上が森や緑の重要性に対する理解が「大変深まった」「少し深まった」と回答し、また9割以上が今後も同様の取組に「参加したい」と回答したことから、県民の森と緑づくり活動に対する理解や参加に本事業が寄与していると考えられます。



問：取組に参加することにより森や緑の重要性に対する理解が深まったか。



問：今後も同様の取組に参加したいと思うか。

## ■環境活動に関する講座の開催

- 安全管理、企画、広報等をテーマとした講座を平成 26 年度から開催しています。参加者へのアンケート調査では、97%が「講座の内容を自身の活動に活用できる」と回答しており、NPO 等による環境活動・学習の発展やレベルアップに寄与しています。
- 活動発表・交流会は、交付金を活用した活動の発表や事業実施団体同士の相互理解を深める機会となっています。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
テーマ等	事業説明、安全、広報、活動発表・交流会	インタープリテーション、企画広報、安全管理、活動発表・交流会	コミュニケーション、安全、企画、広報、活動発表・交流会
参加人数	249 名	280 名	213 名



広報に関する講座の様子



活動発表・交流会

## ■生態系ネットワーク形成事業

- あいち生物多様性戦略 2020 に基づき、県内 9 地域で設立された生態系ネットワーク協議会により、大学、NPO、企業、行政等、多様な人々が共通の目標の下に連携して行うビオトープの創出等が県内各地域で展開されています。
- 交付金活用実績 (H26~29)：ビオトープ創出及び維持・向上 28 箇所



企業緑地内に整備した水辺ビオトープ

知多半島臨海部の企業等が連携し、水辺の創出等に取り組んでいます。新たに創られた水辺には、タヌキ・キツネやカエル・トンボなど、様々な生きものがやって来ています。



地域在来種の森づくり

西三河生態系ネットワーク協議会では、里山林で採ったタネから企業や学校などで苗木を育て、緑化に活用することで地域に広がる在来種の森づくりを進めています。



## 6 森林整備技術者養成事業

○ アンケート調査の結果、研修受講者及び受講者が勤務する会社の8割が、研修で習得した技術が「現場で役立っている」と回答

### ■受講者等へのアンケート調査結果（平成29年度実施）

問：受講生の習得した技術が実際の現場で役立っていますか。

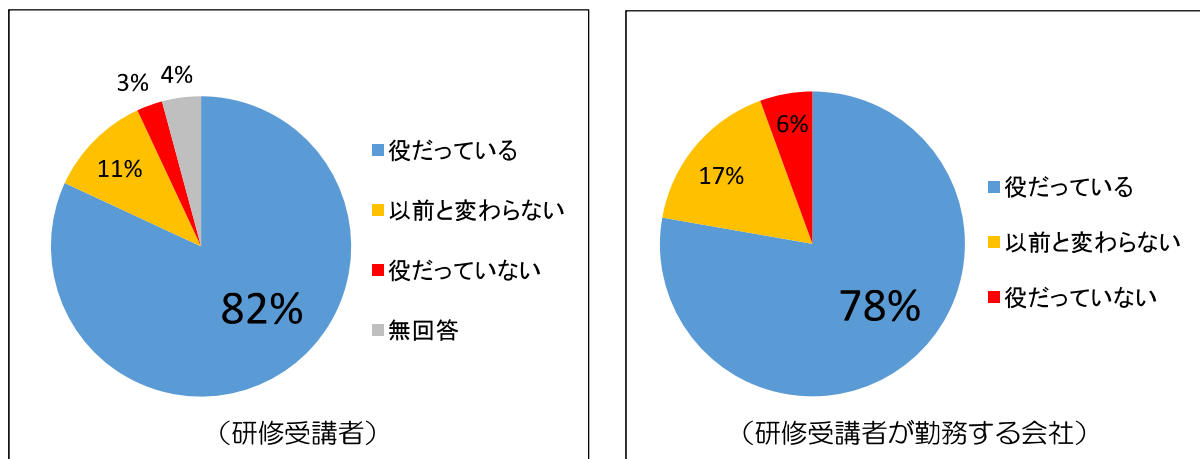


図 4-15 研修受講者等へのアンケート調査結果（平成29年度実施）

### ■森林整備事業体

- 9年間の研修受講者227名の内、202名（※）が本事業に一度は従事をしています。  
（※） 退社した者、現在他の業務に従事している者を含む。
- また、本県が発注する森林整備工事の入札参加資格を有する事業体は、事業開始前の43社から、平成29年7月現在では56社にまで増加していますが、この内、半数以上である29社が、従業員に本研修を受講させています。
- これらのことから、本研修が、あいち森と緑づくり事業はもとより、県内の森林整備を担う技術者の育成に貢献したと考えられます。

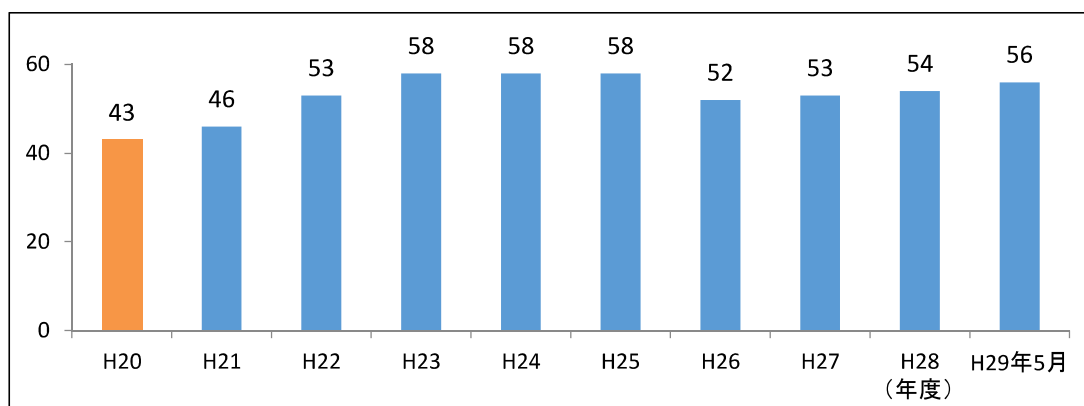


図 4-16 入札参加資格者数（森林整備工事）



研修受講者  
(樹上伐採の  
様子)



研修受講者による実際の作業の様子（人工林整備【公道沿い】）



研修受講者  
(樹上伐採の  
様子)



研修受講者  
(切った枝の  
荷下ろし作業)

研修受講者による実際の作業の様子（里山林整備）

## 7 木の香る学校づくり推進事業

- アンケート調査の結果、市町村教育委員会及び導入校の大半が、「導入の効果を感じる」と回答
- 県産木材の机・椅子を「導入したい」と回答する割合は、導入校が未導入校の2倍程度高い結果

### ■学校関係者へのアンケート調査結果（平成 28 年度実施）

- 平成 28 年度に実施したアンケート調査によると、県産木材の机・椅子等を導入した市町村の約 8 割、導入校の約 6 割が「導入効果を感じている」と回答しています。

問：県産木材の机・椅子の導入効果を感じますか。

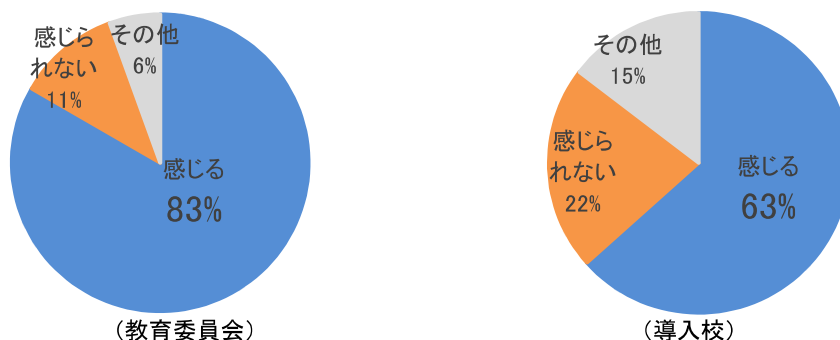


図 4-17 県産木材を使用した机・椅子の導入効果

#### 【机・椅子等を導入した学校関係者の声】

- ・あたたかい学習環境づくり、森林整備や森林保全の意義、自然災害の防止、木材利用方法などへの興味関心を高め、環境教育に役立っている。
- ・児童・生徒が机・椅子等を丁寧に扱うなど、物を大切にする気持ちが生まれている。
- ・明るい材質のため、生徒が傷つけたり汚したりすることが少なくなった。
- ・地域への愛着へつながっていると感じる。

- 今後、県産木材製品を「導入したい」と回答した学校の割合は、県産木材の机・椅子の導入校では 66%、未導入校では 35%と、導入校が未導入校の約 2 倍となっており、導入による効果がうかがわれます。

問：県産木材の机・椅子を導入したいですか。

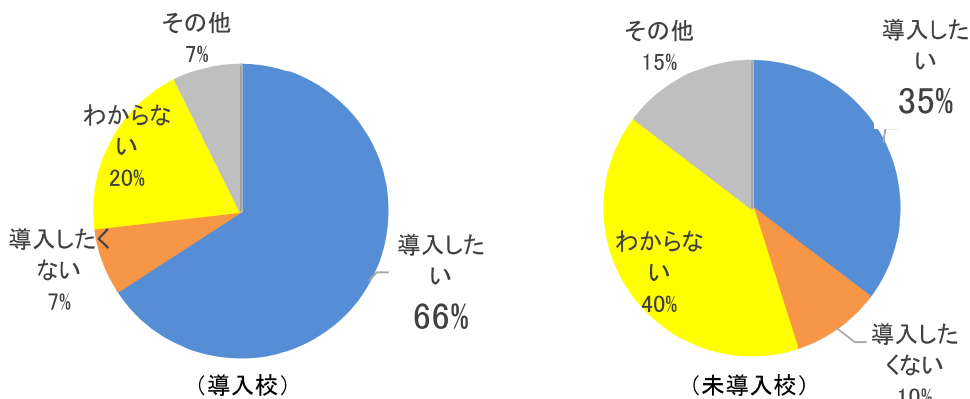


図 4-18 県産木材を使用した机・椅子の導入希望

【導入された県産木材製机・椅子等の利用状況】

○ 県内 29 市町村の公立小中学校で、様々な県産木材製品の導入が進んでいます。



名古屋市（机・椅子）



東海市（下駄箱）



津島市（教卓）



刈谷市（ロッカー）



豊田市（机・椅子）



新城市（机・椅子）



東栄町（教壇）



豊橋市（遊具）

## 8 愛知県産木材利活用推進事業

- 間伐材の搬出量は、本事業の開始前と比べ3割以上増加
- 県産木材を使用した木製ベンチは利用者から好評で、木材利用の普及啓発につながる

### ■間伐材の搬出量

- この事業は、平成 26 年度から開始した事業です。この事業により搬出された間伐材の量は、事業開始前の平成 25 年度に比べ、3割以上増加しています。

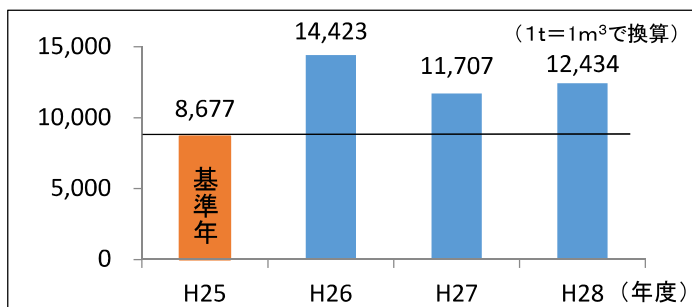


図 4-19 間伐材搬出量の推移

この事業は、市町村が間伐材搬出の取組に対して助成を行う場合に、その経費の一部を支援するもので、基準年（平成 25 年度）より増加した間伐材搬出量が支援の対象です。

### ■ベンチ導入施設へのアンケート調査結果（平成 29 年度実施）

- 平成 29 年度に実施したアンケート調査によると、県産木材のベンチを導入した施設管理者の約 8 割が、「利用者から好評」と回答しています。

問：施設利用者の反応はいかがでしたか。

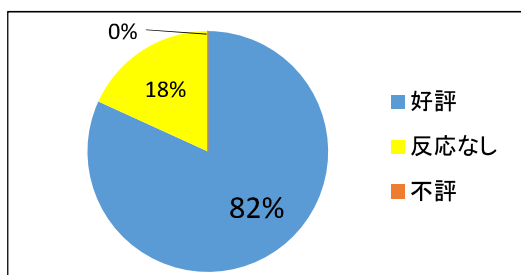


図 4-20 ベンチ導入施設の利用者の反応

#### 【施設管理者の声】

- ・利用者から、ベンチから出る香りのおかげでリラックスして本を読むことができ、とても良いとの声を聞いた。【図書館】
- ・木のぬくもりを感じることができると好評であった。【保育園】
- ・他の素材と比べ、自然な感じが好評だった。【公民館】

### ■ベンチ導入施設

- 導入施設の内訳を見ると、福祉施設で特に導入が進んでいます。
- 一般に、木材には温かみやリラックス効果があると言われており、このように実際に利用されることによって、木の良さの理解者が広がっていると期待されます。

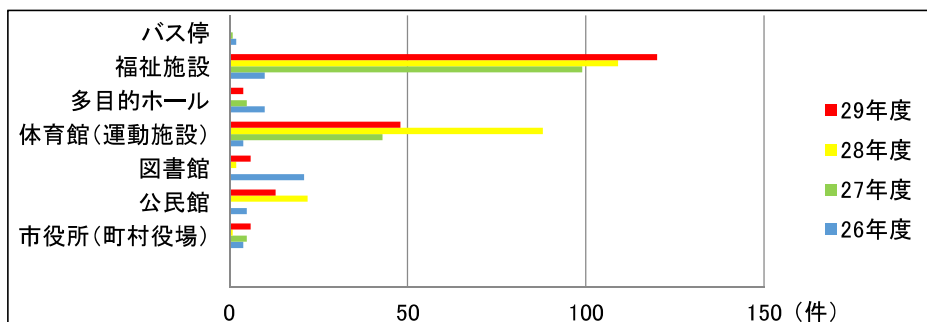


図 4-21 導入施設の内訳

【県産木材ベンチの導入状況】

○ 県内の幅広い地域の公共施設で導入されています。



尾張旭市 図書館



蟹江町 希望の丘広場



常滑市 青海こども園



みよし市 子育て総合支援センター



新城市 作手支所



豊根村 茶臼山高原



豊橋市 児童遊園



田原市 市民館